

【ポスター発表】

施設内虐待の「予防」に焦点を当てた研究の意義と課題

— 先行研究のレビューをもとに —

○ 日本社会事業大学大学院 松本 望 (8530)

キーワード：施設内虐待、予防、文献レビュー

1. 研究目的

2012年10月、いわゆる「障害者虐待防止法」が施行されたことで、児童、障害者、高齢者に対する虐待の「防止」を目的とした法的基盤が整った。これにより実践現場における法的責任や対応方針等がある程度、明確になっただけでなく、マスメディアによる報道の増加や通報件数の増加など、社会的関心も高まりをみせている。

こうした中、これまでも「虐待」に関する研究も行われてはきたが、領域を問わず共通して、「家庭内での虐待」に比して「施設内における専門職による虐待（以下、施設内虐待）」に焦点を当てた研究が少ないことが指摘されている。そのため、実態や要因、メカニズムの解明、さらに効果的な予防策などが十分明らかになっておらず、研究課題が山積しているのが現状である。

施設は家庭と同様かそれ以上に、閉鎖性や密室性が高いとされており、虐待の「発生」のみならず、「潜在化」する危険性も指摘されており、虐待そのものを「予防」することが何よりも重要だとされている¹⁾。しかし、先行研究で「施設内虐待の予防」に焦点を当てた研究はほとんど見当たらない²⁾。

そこで本研究では先行研究のレビューと、先行研究で使用された調査項目を整理し、「施設内虐待の予防」に関連する要因の抽出と、研究を行う意義、課題の整理を行った。

2. 研究の視点および方法

本研究では「CiNii (NII 論文情報ナビゲータ[サイニィ])」を用いて、1980年～2012年の収録されている文献のうち「施設内虐待」をキーワードに検索し、抽出された児童、障害者、高齢者の領域における施設内虐待研究を抽出し、さらにそれらの文献の中で頻繁に引用されている文献や資料についても入手し、検討した。

そして抽出された文献や資料の中から「調査研究」を抽出し、その中で用いられていた調査項目のうち、「予防」「防止」に関連した項目のみを抽出し、内容を整理した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮については、日本社会福祉学会の研究倫理指針に則り、引用・参考文献を明記し、またデータは全て公表されたものであり、個人情報等に関する記述がないことを確

認し使用した。また、本研究の一部は「ユニバーサル財団平成24年度研究助成」を受け行ったものである旨、明記した。

4. 研究結果

本研究の結果、施設内虐待に焦点を当てた研究自体、極めて少なく、中でも虐待の「予防」に関連した要因の抽出や、その効果などが十分明らかにされていないことが改めて明らかとなった。

先行研究で使用されていた質問項目をもとに、「施設内虐待の予防」に関連する要因を抽出したところ、全部で556項目抽出された。これらを分類すると、そのほとんどが「職場環境・組織」に対する予防策が中心であり、虐待の加害者である職員や、まして被害者である利用者に対する予防策はほとんど見当たらなかった。また一部、「身体拘束の予防」にのみ焦点を当てた項目もみられたが、その他は虐待の種別についての記述が特にみられなかった。また、そのほとんどが肯定的な表現の質問文であった。

5. 考察

本研究は文献の抽出や、調査項目の分類方法等の客観性に限界はあるが、先行研究を整理し、「予防」という観点から関連する要因の抽出を試みた研究的意義は十分ある。

施設内虐待は、バイアスや倫理的問題が多いことから、調査研究や実態把握そのものが難しく、これまで実証的研究は十分行われてこなかった。しかし、効果的な予防策の解明は研究・実践上の最重要課題であることから、今後は関係者へのヒアリング調査や、アンケートを用いた意識調査などにより、実証研究を積み重ねていく必要がある。その際、質問の仕方を工夫することや、「虐待」だけではなく「不適切なケア」にも焦点を当てることで、回答への心理的抵抗感を和らげるなど配慮も必要である。「不適切なケア」に焦点を当てることは、施設内虐待が不適切なケアから虐待へと発展する場合も多いとされていることから、重要だといえる。

今回、先行研究と同様に²⁾「職場環境・組織」に対する予防策が多く抽出されたことから分かるように、職員自身の要因や予防策だけを検討しては、問題は解決できないと考えられる。そのため施設内の人間関係や職場環境、社会、制度的な要因なども含め、幅広く検討する必要がある。

このように調査方法を工夫するとともに、広い観点から虐待問題を捉え、予防に向けた研究を蓄積させていくことが今後の課題である。

- 1) 吉川悠貴：認知症ケア現場における高齢者虐待防止；未然防止の観点から。日本認知症ケア学会誌、11(4)：765－771、2013。
- 2) 松本望：認知症グループホームの介護職員が求める虐待予防策因子の構造と課題；職員・職場の属性による認識の違いをもとに。高齢者虐待防止研究、9(1)：44－53、2013。